# 学 校 だ よ り　4月号

文京区立第一中学校　令和６年４月８日(月)

## エール

校長　田島　佳子

Yell：応援　励まし

新しい生活が始まる４月は出会いの時でもあります。１年生は、中学校が始まり不安と期待でドキドキの日々を過ごしていることでしょう。２年生は、先輩としての振る舞いを身につけ、３年生は最上級生として模範を示そうと頑張っていると思います。

さて、皆さんは、沖縄が第二次世界大戦において日本で唯一、内戦の地となったことを知っていますか。今の沖縄は、青い海と空、美味しい食べ物など観光地のイメージが強いと思いますが、約80年前には、アメリカ軍が沖縄本土に上陸して戦闘が繰り広げられていました。この戦闘で２０万人にも及ぶ日本人が犠牲になりました。その後アメリカの占領下に入り、１９７２年に返還されました。沖縄には本土にはない独特の考え方があります。美しい自然と共に背伸びせずに生きてきた先人からの教えをしっかりと次世代に受け継いでいます。多くの犠牲を出した内戦やアメリカの占領下に入ったとしてもその誇りは失われませんでした。自分たちの土地と生き様に自信があるのです。「誰のものでもない、私たちは私たち。神がくれたこの土地の民」という誇りなのでしょう。沖縄は琉球王国として栄え、素晴らしい文化をもっています。美しい自然の中であらゆる所に神が宿ると信じ、昔からの風習や習慣を大事にしてきました。暖かい土地ですので、果物が一年中実をつけ、きれいな海には魚もいます。独特の食べ物や飲み物、お祭もあります。今年度から文京区では平和特派員として各中学校から２名の２年生が代表として沖縄のうるま市を訪問します。

３５年も前になりますが、沖縄に初めて行ったときに驚いたことがあります。ホテルが建っている地域は都会的でした。海は青くこんなに海の色って色々あるのだと思いました。急激に発展したのだと思います。レンタカーを借りて空港より南の方へ行きました。道を間違えて迷ってしまい、しばらく全然対向車に合わないような道を進んでいきました。そこはまるでタイムスリップしたかのような景色が広がっていました。一瞬、戦時中なのでは？と思うような風景だったのです。周りは、サトウキビ畑が延々と続き、防空壕のような民家のような半分壊れた家がポツンポツンとありました。数時間前に見た近代的なリゾートとは全く違いました。まだ、終わっていない。傷跡は残っている。と思うと同時に、どんな思いで沖縄の人たちは戦後を生きてきたのかと思いを馳せました。「頑張れ」と容易に言葉にしてはいけないような思いになりました。それでもエールを送りたい気持ちになりました。新しい生活が始まった皆さんにも不安があることでしょう。そんな皆さんに沖縄の言葉を贈ります。経験は必ず力となります。

作（ちゅく）い　容姿（しがた）　んちゃ　どぅある
生（ん）　まり　容姿（しがた）　んちゃ　無（ねー）らん

「歳を重ねれば重ねるほど、生まれ持った容姿ではなく、
その人の生き様や心のあり方が容姿に表れます。」